

第2学年生活科学学習指導案

令和2年10月28日（水）5校時

1. 単元名 もっと知りたい たんけんたい2 ※内容（3）「地域と生活」

2. 単元の目標

地域で働いたり生活したりしている人と関わる活動を通して、地域の人々について考えることができ、自分たちの生活が地域の人々と関わっていることや地域の人々と関わる楽しさが分かり、地域の人に親しみや愛着をもち、友達と協力して交流を深めようとするができるようにする。

3. 単元の評価規準

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元	の	地域で働いたり生活したりしている人と関わる活動を通して、自分たちの生活が地域の人々と関わっていることや地域の人々と関わる楽しさに気付いている。	地域で働いたり生活したりしている人と関わる活動を通して、交流の仕方について考えたり、気付いたことや教えてもらったことについて表現したりしている。	地域で働いたり生活したりしている人と関わる活動を通して、地域の人に親しみや愛着をもって関わったり、友達と協力して交流を深めたりしようとしている。
小単元	1	①自分が住んでいる地域には、様々な人が働いたり生活したりしている人がいることに気付いている。	①自分が住んでいる地域にはどんな人がいるのか思い起こし、友達と伝え合っている。	
	2	②相手や場に応じた行動について気付いている。	②地域の人に聞きたいことや調べたいことを考え、計画を立てている。	①グループの友達の意見と自分の意見を調整しながら、楽しく安全に町探検ができるよう準備しようとしている。
	3	③地域で働いたり生活したりしている人が様々な工夫をしていることに気付いている。	③相手や場の状況に応じた適切な行動を意識しながら、インタビューしている。	②ルールやマナーを守り、進んで地域の人にインタビューしようとしている。
	4	④地域で働いたり生活したりしている人の地域への思いや、それらの人々が自分たちの生活を支えていることに気付いている。	④探検で関わった地域の人のためにしてみたいことや一緒にしてみたいこと、聞いてみたいことを決めている。 ⑤相手や場に応じて、地域の人と関わっている。	③探検で関わった地域の人と親しくなるために、友達と協力して繰り返し関わろうとしている。
	5	⑤自分たちの地域には、すてきな人がたくさんいることに気づき、地域の人々への親しみや愛着が深まっていることに気付いている。	⑥町探検で気付いたことや教えてもらったこと、体験したことについて、工夫して表現したり発表したりしている。 ⑦互いの発表について比べたり関連付けたりしながら、自分なりの考えをまとめている。	④地域の人について伝えたいという思いをもって、友達と協力して発表会を楽しもうとしている。

4. 指導と評価の計画（全19時間 本時13/19）

小単元名 (時間)	学習活動	◎学校図書館活用 ●学び方	評価 規準	評価方法
1 町にはどんな人がいるのかな (2)	・日常生活を振り返ったり図書資料を見たりしながら、町にはどんな人がいるか話し合う。 ・会いたい人や話したい人、聞きたいこと等についてグループで話し合う。	◎「名人はっけん！まちたんけん」シリーズ ◎「しごとば」シリーズ	知① 思①	◇発言分析 ◇行動観察，発言や話し合いメモの分析
2 町探検の計画を立てよう (2)	・グループごとに町探検の計画を立てる。 ・地域の人にインタビューできるように質問を考えたり練習したりする。	●1 課題設定 調べたいことを見つける（ペンタゴンチャート） ●2 情報収集 (1)尋ねる・応答する	知② 思② 主①	◇行動観察，発言やワークシートの分析 ◇行動観察，発言やワークシートの分析 ◇行動観察
3 町の人にインタビューしよう (3)	・グループごとに町探検に出かけ，地域の人にインタビューする。 ・発見したことをカードに書く。	●2 情報収集 (1)聞く，尋ねる・応答する (2)写真を撮る ●2 情報収集 (4)情報カードに記録する	知③ 思③ 主③	◇発言や情報カードの分析 ◇発言や振り返りカードの分析 ◇発言や振り返りカードの分析
4 町の人となかよくなる (5)	・グループごとに，もう一度探検に行く計画を立てる。 ・地域の人と一緒に体験する等して，交流を深める。 ・気付いたことや教えてもらったこと，体験したことについてカードに書く。	●1 課題設定 調べたいことを見つける（ペンタゴンチャート） ◎前述図書 ●2 情報収集 (1)聞く，尋ねる・応答する (2)写真を撮る ●2 情報収集 (2)情報カードに記録する	思④ 思⑤ 主④ 知④	◇発言やワークシートの分析，行動観察 ◇発言や振り返りカードの分析 ◇行動観察，発言や振り返りカードの分析 ◇発言や情報カードの分析
5 町の人のおすてきを伝えよう (7)	・町探検で関わった人について伝える計画を立てる。(本時) ・グループごとに，地域の人への思いや工夫について気付いたことを伝える準備をする。 ・町の人のおすてき発表会をする。 ・町探検や町の人のおすてき発表会を振り返る。	●3 整理・分析 (1)必要なことを集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にする(なぜ・なにシート) ●4 まとめ・表現(1)相手に伝わるように話す順序を考える	知⑤ 思⑥ 主④	◇発言や振り返りカードの分析 ◇行動観察，ワークシートや発表用カードの分析 ◇行動観察，発言や振り返りカードの分析

5. 本単元で身に付けさせたい学び方（本校学校図書館「どのように学ぶか」系統表より）

- 1 課題設定 経験したことから、調べたいことを見つける
- 2 情報収集（1）話し手が伝えたいことを集中して聞く
自分が聞きたいことを尋ねる・応答する
- 2 情報収集（2）写真を撮る
- 2 情報収集（4）情報カード（文や写真・絵）に記録する
- 3 整理・分析（1）必要なことを集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にする
- 4 まとめ・表現（1）相手に伝わるように話す順序を考える

6. 基盤

（1）単元について

1学期の「とび出せ 町のたんけんたい」では、学校近辺の特徴ある街並みや歴史的な建造物について市の出前講座を活用して調べたり、また、古くからある和菓子店を見学したりして、分かったことを家の人にクイズ形式で発表した。児童は、地域に歴史的な価値があるものが多く残っていることを知ったり、和菓子店の人との交流を深めたりして、地域のよさを味わうことができた。また、自分たちで調べたことを家の人に知ってもらいたいと意欲的にクイズ作りに取り組み、達成感を味わうことができた。

本単元においては、1学期の活動を踏まえ、より主体的に友だちと協力して活動できるようにしていきたい。校区内には、駅や郵便局、商店、スーパーマーケット、イベント等が開催されるプラザ、また、保育園、中学校、高等学校といった町の人々の生活を支える場が多くある。自分たちで調べたい人や場所を決め、探検の計画や準備をすることで、より児童の主体性が発揮できるようにし、地域の人々との交流が展開できるようにしたいと考える。また、調べたことを伝えたいという児童の思いを生かし、表現活動に取り組む中で、地域への親しみや愛着を感じることができると考えている。

（2）児童について

※省略

（3）指導にあたって

研究の視点「自らの課題を自覚し、学校図書館を活用する探求のサイクルを学びながら見通しをもってやり抜くことで、学びから自分の成長を自覚できるような学習を工夫する」から、単元における手立てを次のように設定した。

<手立て1> **児童の興味関心や解決意欲を喚起する題材との出会わせ方**

単元の導入（小単元1）において、町にはどのような働く人々がいるのか、また、自分たちの生活とどのように関わっているのかということについて興味関心を高めることができるよう図書資料を活用する。

本単元で活用する図書資料は、次の通りである。

「名人はっけん！まちたんけん」①～⑤ 学研 監修：鎌田和宏

「しごとば」全3巻 ブロンズ新社 作：鈴木のりたけ

これらの図書資料は、児童がいつでも調べたり確かめたりできるよう、学級に常設しておく。

<手立て2> **言語活動の選択、展開（図書資料・思考ツールの活用、場の工夫、学習形態）**

本単元で身に付けさせたい学び方を育てるために、「課題設定」において調べたいことを見つけるためのペンタゴンチャートと、「整理・分析」において伝えたいことを明確にするためのなぜ・なに

シートの活用について指導する。指導に当たっては、司書教諭と TT による指導を行う。なお、「情報収集」のための情報カードやデジカメの使用については、これまでの経験を踏まえ活用していく。

本時においては、なぜ・なにシートの活用の仕方について司書教諭と TT による指導を行う。児童に分かりやすく例示しながら、グループの主張を決め、それに合う理由や根拠を考える過程について説明する。こうした組み立てを考えることは、プレゼン発表をはじめ、様々な表現活動に発展していくものである。

また、本單元においては、友達と協力して地域の人との交流を深めることについてもねらいとしており、グループ活動を中心として展開する。自分の意見を話したり他の意見を受け止めたりしながら活動することで、児童の思考の広がりや深まり、あるいは、主体的な活動が期待できると考える。

<手立て3> 振り返りを共有する場「学び合いタイム」の設定

活動後の振り返りの場面では、自分や友達の頑張りについて振り返る。友達と協力して活動するよさを実感できるようにしたい。

7. 本時の学習（全 19 時間 13/19）

(1) ねらい

- 地域の人々の思いや工夫について、自分の考えを話したり友達の考えを受け止めたりしながら話し合い、地域の人々の思いが工夫につながっていることに気付くことができる。

(2) 展開

学習活動	教師の支援・指導上の留意点		●学び方	評価
	T 1（担任）	T 2（司書教諭）		
1 町探検を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの探検の様子が分かる写真を提示し、体験を想起させたり他のグループの探検活動への興味関心を高めたりする。 			
	<p>「町の人々のすてき発表会」をしよう</p>			
2 本時の学習について知る。	<ul style="list-style-type: none"> 町探検で関わった人について、グループごとに発表することを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表の仕方について、児童のモデルとなるようデモンストレーションする。 「なぜ・なにシート」の活用について説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●3整理・分析 (3)必要なことを集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にする →「情報カード」「なぜ・なにシート」を活用 	<p>自分の考えを話したり友達の考えを受け止めたりしながら、話し合っている。</p> <p>【思判表】</p> <p>◇発言やワークシートの分析、行動観察</p>
3 グループで、伝えたいことについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 学び合いタイムを設定し、児童の良い姿を紹介したり困ったことを出し合ったりし、次時の活動への意欲や見通しがもてるようにする。 			
3. 本時を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。				

(3) 本時の評価と支援

十分満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援を必要とする児童への手立て
話し合いを通して、地域の人の思いが様々な工夫につながっていることに気付いている。	話し合いを通して、地域の人の思いが工夫につながっていることに気付いている。	地域の人は何のために工夫をしているのか問いかけたり、見つけた工夫を比べさせたりして、地域の人の思いに気付けるようにする。

(4) 研究の視点

- ① 児童は、地域の人の思いが工夫につながっていることについて、「情報カード」や「なぜ・なにシート」を活用して考えていたか。
- ② 本單元において、図書資料を活用したことは、児童の興味・関心を高めることにつながったか。

8. 研究協議の概要

参加者	校内 14名、校外 8名、 計 22名
授業及び研究協議の概要	<p>○ねらい</p> <p>地域の人の思いや工夫について、自分の考えを話したり友達の考えを受け止めたりしながら話し合い、地域の人の思いが工夫につながっていることに気付くことができる。</p> <p>○授業の概要</p> <p>児童は、前時までに町探検での気付きを情報カードに個々で記録している。本時では、その情報カードをもとに、思考ツール「なぜ・なにシート」を活用して、地域の人の思いを考え、それを伝える情報を選ぶ活動を行った。</p> <p>○研究協議の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ・なにシート」の使い方について、司書教諭とデモンストレーションしたことは児童の意欲を高め、活動への見通しをもたせるために有効だったが、活動時間を確保するためには前時にしておくといよい。 ・単元全体を通して、地域の人の思いに触れることを児童自身が意識して交流活動をしていけるようにするとよかった。 ・体験したことも情報カードに記録しておくことで、まとめや表現に役立てることができるとよかった。 ・児童が情報カードを並べたり動かしたりしながら話し合いをするためには、「なぜ・なにシート」を拡大しておくといよかった。 ・図書資料を導入で活用することで、地域の人についての児童のイメージを広げたり共有したりすることができた。

第2学年 生活科「もっと知りたい たんけんたい2」単元構想表

